

診療□科別の医師の需要と□供給に  
関する情報を□提供したいと思った数  
●%のケース測するら□タミー医療  
と医者診□療科別の必要医師数□を  
予エネルギー過剰□適応神経過敏ほ  
とん□きこもり抑うつ行動□化あれ  
これ、迷って□いたときに上の先生  
□から臨床もやったこ□とがない人

東京慈恵会医科大学外科学講座

## 外科医自身が輝いている医局なら 3Kでも10Kでも医師は集まる



東京慈恵会医科大学病院  
外科学講座チエアマン(統括責任者)  
血管外科教授・診療部長  
**大木隆生氏**

1987年東京慈恵会医科大学医学部卒。同大第一外  
科を経て、95年米国アルバートアインシュタイン医科大  
学モンテフィオーレ病院血管外科研究員。05年から同  
院血管外科教授。06年に帰国し、東京慈恵会医科大  
学血管外科講座教授、診療部長を経て07年から現職。

【医局情報】医局員約280人。日本でも数少ない大講座  
制をとっており、消化管外科(上部消化管、下部消化管)、  
肝胆膵外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科などを、  
血管外科の大木氏がチエアマンとして束ねている。

間が何を□言っても説得力がな□い、  
と一喝され、ひ□とまず、普通に臨  
床□をやってみよう□と□とって多  
少なりとも□参考になるように、□  
現在から将来の診療□科別の医師の  
需要と□供給に関する情報を□タミ  
ー医療と医者診□療科別の必要医師  
数□を予エネルギー過剰□適応神経

過敏ほとんど□どのケース無関心引□  
きこもり抑うつ行動□化あれこれ、  
迷って□いたときに上の先生□から  
臨床もやったこ□とがない人間が何  
を□言っても説得力がな□い、と一  
喝され、ひ□とまず、普通に臨床□  
をやってみよう□と□とって多少な  
りとも□参考になるように、□現在

から将来の診療□科別の医師の需要  
と□供給に関する情報を□提供した  
い思った数●%のケース測するら□  
タミー医療と医者診□療科別の必要  
医師数□を予エネルギー過剰□適応  
神経過敏ほとんど□きこもり抑うつ行  
動□化あれこ16字×108行=2088字  
(小見出し入る分の9行分除き)

大木隆生氏が率いる東京慈恵会医  
科大学外科学講座は、全国的に外科  
医不足が深刻化する中、右肩上がり  
に新規入局が増えている。一時期、  
約190人まで落ち込んでいた医局

員数は、7年間で280人近くにま  
で増加した。その理由は、血管外科  
の権威である大木氏の名声や、慈恵  
のブランド力にとどまらない。外科  
医が減少した本場の理由を見抜く

力も、大木氏は抜きん出ている。  
「外科を避ける理由として、『拘束時  
間が長い』『訴訟リスクが高い』など  
とよく言われますが、問題の本質で  
はありません。そうした厳しさは以  
前から同じで、3Kが1Kだったわ  
けではないです。医学部1年生は、  
今も昔も7割方が外科系志望です。  
なぜ、その芽が摘み取られてしま  
うか。本来の外科学の魅力が伝わら  
ないからです」  
2004年に始まった新医師研修  
医制度は、スーパーローテートによ  
って研修医がじっくり各科を比較検  
討できるようになった。もちろんよ  
い面もあるが、外科にとってはそ  
うとも言い切れない。  
「かつて、多くの外科医はポリクリ  
で垣間見た『かっこいい』という印象

だけで入局を決めていました。わず  
か4週間のポリクリでは、現場の大  
変さはあまり見えません。しかし、  
3ヵ月にわたって外科に所属する初  
期研修では、上級医のほやきが耳に  
入ります。『やっつけられない』『割に合  
わない』といった声です。また、大  
野病院事件で医師が逮捕されたこと  
などから、過剰なインフォームドコ  
ンセントを行う医師もいる。『手術さ  
せていただきます』と無暗にへりく  
だり、言い訳のように合併症のリス  
クを説明する。そんな姿に研修医は  
落胆し、他科へ流れてしまいます」  
大木氏は「適切な例ではないかも  
しれないが」と前置きしながら診療  
科選びを、恋愛に例えて説明する。  
「愛情があれば、裕福でない人と結  
婚しても一緒に困難を乗り越えられ

ます。外科も同じで、憧れや、やり  
がいがあれば、多少の大変さは克服  
できます。仲間と切磋琢磨しながら  
技術を高めて患者を救い、感謝され  
る。そうした外科学の普遍的な魅力  
が感じられ、先輩医師を見て『こう  
になりたい』と思える医局であれば、  
3Kでも10Kでも人は集まります。  
逆にやりがいや憧れがなければ労働  
条件のいい科を選ぶでしょう」

### 「あんな医師になりたい」と トキメキを感じる医局運営

大木氏の医局運営でキーワードと  
なるのが「トキメキと安らぎのある  
村社会」だ。トキメキとは、外科医  
が外科医らしく輝けることを指す。  
「大前提として、若手の前では決し  
てばやかないことを医局員に言っ

います。加えて、若手に教える手間  
を惜しまないこと。学生全員の名前  
は覚えますし学生に自分の外来につ  
かせていますが、ただ『見て学びな  
さい』ではなく、検査画像やカルテ  
を示しながら事細かに説明していま  
す。その上で、手術後に喜んでいる  
患者の笑顔を見せる。手術の時は、  
全員に皮膚縫合をやらせて、手術の  
奥深さを体感させます。時間もかか  
り、負担も少なくありませんが、手  
抜きしません」と大木氏。また、患  
者とのコミュニケーションにおいて  
は、必要以上にへりくだることはな  
い。

「私が患者に言うのは、『全力を尽く  
しますのでお任せください』。ただ  
それだけです。パターンリズムと思  
う人もいることでしょう。しかし、  
放っておくと死が確実で、手術をす  
れば大多数が助かる患者には、治療  
の自己決定権を押しつけず、安心感  
を与えることが優先されます。外科  
医は外科医らしく堂々とメスをふる  
うということ」

なお、大木氏は慈恵卒の者でも中  
途入局を認めていない。その代わり  
後期研修を最終学歴と定め、出身大  
学による差は一切設けず、平等な村  
社会を運営している。入局後も活発  
に学べる機会があることも、大木氏  
の医局の特長だ。現在、留学で7人、

大学院で10人の医師が学んでいる。  
この7月からは僻地医療の取り組み  
も始めた。高知県で外科医不足がも  
つとも深刻な病院に医局員を1人派  
遣している。医局員に志願を呼びか  
けたところ、すぐに5人からのレス  
ポンスがあった。震災対応の際は50  
名もの志願があり、求心力の高さが  
うかがえる。

### 「ウェットでお節介な社会が 外科医の力を養う」

そのトキメキと両輪をなすのが、  
もう一つのキーワード「安らぎ」だ。  
大木氏がこれを大切にしている背景には、  
12年間の米国での臨床経験がある。  
「個人主義、能力主義のあまり、み  
んなが疑心暗鬼になり、家族以外は  
みんな敵、というくらい殺伐として  
いました。人間は社会的動物です。  
医師が安心して医療に打ち込むには、  
信頼できる仲間同士で支え合い、刺  
激し合う環境、つまりウェットでお  
節介な環境が必要です。寄せ集めの  
傭兵より、苦楽を共にした仲間のチ  
ームの方が各段に求心力も生産性が  
高い」

帰属意識醸成には、医局員同士の  
接触時間を長くすることが肝心だ。  
大木氏は毎月1回、医局員が集まる  
夕食会を開き、過去60回以上、一度  
も休んだことがない。ゴルフコンペ

や医局旅行も開催し、医局旅行には  
90人も参加し、裸の付き合いをする。  
医局の求心力の高さには驚くばかり  
だが、大木氏に人事について尋ねる  
と納得する。内ポケットから取り出  
した1枚の紙には、医局員の勤務先  
がびっしりと記されていた。  
「チエアマンに就任してすぐ、医局  
員全員の勤務を一覧にしました。  
現在の勤務先と、過去10年間を示し  
たものと2種類あります。30の関連  
病院のうち、誰がどこに何年行った  
かを常に把握し、不公平感が集中す  
ることを避けています。もちろん、  
医局員の家族構成や生活状況も考慮  
します」

さらに、相対的に条件の悪い病院  
とは関係を解消したり、待遇面での  
改善を、大木氏自ら医局員の代理人  
として交渉することもある。一方で  
立地とインフラのよい病院との関係  
を深める。医局員が誇りとやりがい  
を持って働ける環境作りを奔走する。  
大木氏は「今、入局して来る医師は、  
外科の大変さを知っていて来る精鋭  
たちです。彼らの期待に応えたい」と  
語る。その表情には、熱意ある外  
科医をドンと受け止める、さらなる  
熱意が宿る。外科医の気持ちを知り  
尽くし、彼らが一番輝ける場を作る。  
シンブルで、骨太の医局方針が、多  
くの医師をひきつけている。



過去10年にさかのぼって医局員の勤務歴をまとめた一覧表。  
誰がどの病院に派遣されたか、一目でわかるよう色分けされて  
いる。